

教職員自己紹介

尾崎 昭剛 (おざき しょうご)

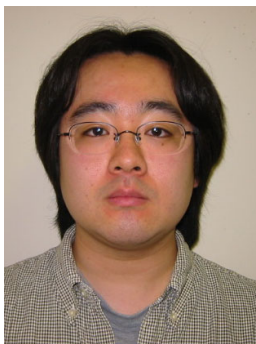
実習助手

1978年生まれ。長崎県出身。平成13年3月九州工業大学情報工学部知能情報工学科卒業、平成15年3月九州工業大学大学院情報工学研究科情報科学専攻博士前期課程修了。現在、九州工業大学大学院情報工学研究科情報科学専攻博士後期課程1年生。

研究テーマは、音楽での曲の習得課程のユーザに対するコンピュータによる知的サポートです。このよう

なテーマを始めたきっかけは、自分で楽器を演奏していて「楽譜をめくるのが面倒」と感じた事でした。私はピアノを少し習っていた事があり、高校時代には吹奏楽部でホルンを演奏していました。この2つの楽器を演奏する際、楽譜のページをめくるタイミングが難しく、時として演奏を余儀なくされる事がありました。この経験から「コンピュータが、人間の演奏を認識して、適切な楽譜を表示すれば便利になるのではないか」と考え、研究を始めました。現在では、楽譜の表示に限らず、練習途上のユーザをサポートするために、間違いを含む演奏をどのように解析するか、をメインに研究を行っています。

講義では、計算機リテラシー (Bクラス) と、データ構造とアルゴリズム (B、Dクラス) で実習助手として参加しています。実は、JAVA 言語に触れるのは初めてなので、質問されてもきちんと答えられるよう、私自身、勉強していきたいと思えます。



加藤 健士 (かとう たけし)

実習助手

大分県別府市出身です。機械などが好きでしたので、大分工業高等専門学校の機械工学科に進学しました。その頃からプログラムを作ることが楽しく、計算機やプログラミングなどについて勉強したくて、九州工業大学の知能情報工学科に編入しました。現在は、同大学大学院博士前期課程に在籍しています。

研究テーマは適応型分散オブジェクト指向計算環境

についてです。分散オブジェクト指向計算とは、分散計算とオブジェクト指向を組み合わせた物で、物理的に分散したオブジェクト同士が協調しながら計算を進めていくようなシステムです。このようなシステムが動作する環境は計算機の追加や移動、またハードウェアの追加、ソフトウェアの更新といった変化が発生します。また、電源の異常といった障害も発生します。

オブジェクトが現在の環境の情報を知ることができれば、このような変化にあわせてオブジェクト自身の振る舞いを変更する、つまり適応することが可能になります。現在は、このような環境に関する情報を、どのようにオブジェクトに対して見せるのかについて研究しています。

講義では、データ構造とアルゴリズムのお手伝いをしています。

